

過多月経の手術療法：マイクロ波子宮内膜焼灼術（MEA）

2019. 11. 1

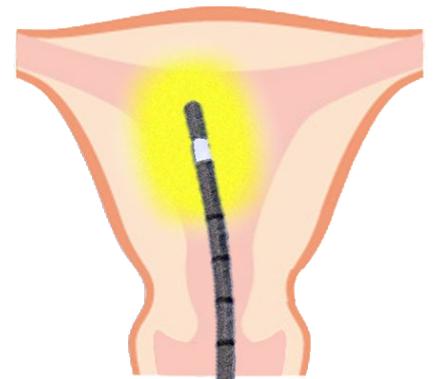
松本産婦人科医院 院長 松本直樹

0495-24-3377

マイクロ波子宮内膜焼灼術（MEA）は、過多月経・過長月経に対する手術療法です。当院では日帰り手術として行っています。

過多月経・過長月経に対する治療として、まず貧血改善のために鉄剤の投与を行います。さらには出血を減らす治療として、止血剤、ホルモン剤のほか、ミレーナという子宮内避妊具（子宮内黄体ホルモン放出システム）挿入などを試みます。それらが有効でない場合に、MEA、子宮動脈塞栓術、子宮全摘術などの手術を検討します。MEA は、子宮摘出までは希望しない方、入院治療を避けたい方などに合う手術です。

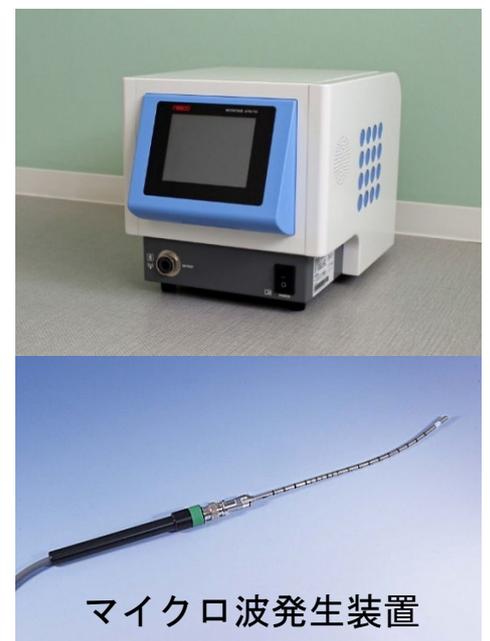
子宮内膜は月経時にははがれて出血する機能を担っています。子宮内膜を焼灼することで出血しないようにしてしまう手術が MEA です。



MEA のイメージ図

手術の方法

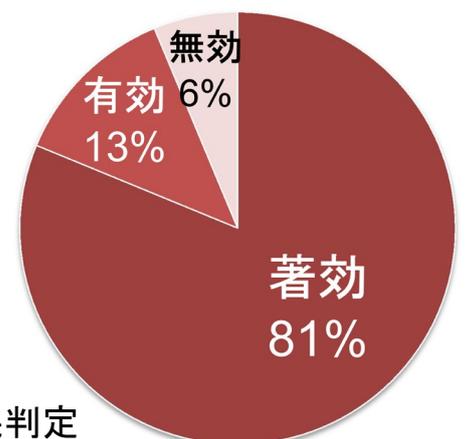
麻酔は局所麻酔のほか、静脈麻酔という簡単な全身麻酔を用い、軽く眠った状態で手術に臨みます。子宮鏡で子宮内を観察した後に、マイクロ波発生装置を用いその発熱で子宮内膜を数回焼灼します。手術時間は 30 分程度です。麻酔の効き具合にもよりますが手術中の痛みは軽度です。手術後は麻酔が十分に覚めるまで回復室で休みます。その後診察し帰宅となります。術後はしばらくの間、帯下（おりもの）が続きます。下腹部痛、出血などは短期間で収まることが多いです。その後は通院で慎重に経過をみていきます。術後 2～3 か月で状態が安定すれば、以降は年に 1～2 回程度の通院（経過観察）となります。



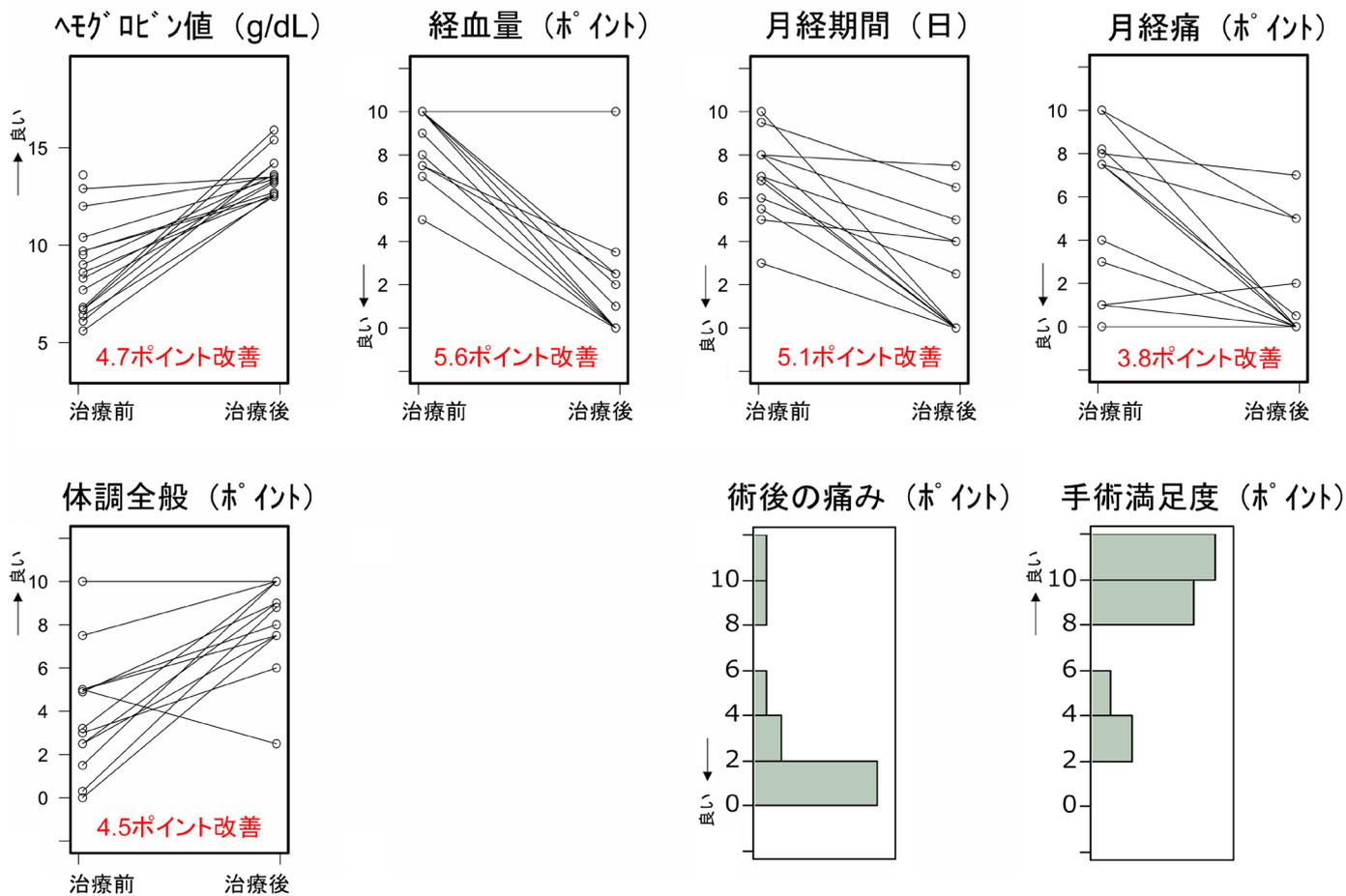
マイクロ波発生装置

治療効果

経血量の減少に関して、治療効果はおおよそ 95%と見込んでいます。月経痛も軽減することが多いです（60%）。治療効果の得られやすさはもともとの病状によりますので、事前によく相談して手術を決定します。



治療効果判定



院長の MEA 経験症例の成績 (佐藤病院 22 例)

Naoki Matsumoto et al. Gynecology and Minimally Invasive Therapy 2015

手術に伴う危険性など

十分注意して手術を行っておりますが、手術の合併症として出血、腹痛、感染、発熱などが起こります。またまれな可能性として子宮穿孔、子宮外臓器の損傷(腸や膀胱)があげられます。それぞれ適切な対応を行います。手術後は帯下や出血が1~2か月程度続きますが徐々に改善します。その他の注意点として次のような点があげられます。今後正常な妊娠は望めないこと、症状の改善が乏しい場合には子宮全摘術等の治療を考慮することなどです。

事前に十分な病状評価を行い、それに基づく説明とより良い治療法を提案いたします。十分理解した上で MEA などの治療を受けていただきたいと思います。